

令和5年度学校評価(中間評価)

本年度の 重点目標		1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 2 自立と社会参加を促す教育活動の推進 3 安全・安心な学校づくり 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 5 センターの機能の充実 6 仕事の効率化、勤務時間の適正化を図る		
項目		重点目標	具体的方策	中間評価
小学部		児童の「個別最適な学び」「協働的な学び」に必要な環境を整えます。	1 児童の多様な実態に応じた指導の実践、検証、改善を小学部全体で進めます。 2 できるだけ多くの人と一緒に学べるような学習活動を、積極的に計画します。	1 習熟度に合わせて個別指導を進めたり、児童の体調に合わせてオンライン授業と対面授業を組み合わせで行ったりできました。前期の反省や改善アンケートの結果を生かし、後期も指導の充実に努めます。 2 石ヶ瀬小学校とは、オンライン交流を行い、クイズを楽しみました。後期も、2回目の交流に向けて、休み時間等も利用した協働的な学びの機会を増やしていきます。 宿泊学習、校外学習、国際交流会、外部講師を招いた体験講座など、後期に向けて協働的な活動を計画しています。
中学部		1 基礎的・基本的な学力の習得を確実に行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気づき、個性の伸長を図ります。 2 思春期の発達課題を念頭に置き、他者によりよい人間関係を築く力を育みます。	1 生徒の実態や学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。 2 ICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向型通信を使った授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 3 集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験を、多くの生徒ができるよう支援します。	1 生徒の入院予定や学習状況を把握し、それぞれの実態やニーズに合わせて、担当教師や学習内容などに配慮し、学力の習得度を上げられるように工夫しています。 2 部集会や道徳の授業などで、同時双方向型通信を活用し、集団で学び合う環境と対話的な活動、生徒同士の関わり合いなどの充実に努めています。また、病気療養等で登校できない生徒と同時双方向型通信でつなぐオンライン学習について、生徒の体調や実態に合わせて実施しています。 3 一人一人に寄り添い、必要に応じて個別に相談や面談をし、学習に向かう態度の育成や、円滑な人間関係の構築のための支援をしています。
高等部		1 新学習指導要領の完全実施を見据え、評価の観点にうたわれる「主体的に学習に取り組む態度」を育む授業づくりを目指し、授業改善に取り組めます。 2 在学中に成年年齢にさしかかる高等部段階の生徒として、社会自立を意識した教育活動に取り組めます。	1 授業の中に話し合い活動を積極的に取り入れ、個に応じた意思表出機会を設けていきます。 2 周囲から肯定される経験を積めるように、積極的に授業の中で振り返り活動を設けていきます。 3 社会で生活するのに必要とされる力を考え、個々の課題を高等部職員で共有した上で、課題解決に向けた取組を学校生活の中で繰り返し行います。	1 総合的な探究の時間において、自由に発言しながら積極的に互いを肯定し合い、テーマを決め、それに基づく学習を進めています。生徒たちは、文化祭で発表できることに期待をもち、活発に意見を出し合う姿が見られています。 2 自分でできることは自分で行えるよう、従来から行ってきた支援を見直しています。身の回りのことは自分でしようという姿勢が、さまざまな場面で見られるようになってきています。
施設内教育	名大 藤田 中京	児童生徒の個々の治療状況に応じた学習環境の整備に努めます。	治療の間隔が長く空く際の交流教育や、病室から外出できない際のベッドサイド授業など、個々の状況に柔軟に対応できるように環境を整えていきます。	交流教育については、個々の児童生徒の状況に応じて交流先の学校と連携しながら進めています。ベッドサイド授業には、学習保障を主眼において柔軟に対応しています。
訪問教育		1 児童生徒の一人一人の実態に応じた授業作りをします。 2 病院等の関係機関と密にコミュニケーションを図り、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。	1 児童生徒の体の動きや認知の特性、学習状況等を的確に把握して授業を実施します。 2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、実態にあった支援の目標・内容・方法を検討します。 3 電話やメール、また同時双方向型通信や病棟との連絡ノート等を積極的に活用し、児童生徒の状況について共通理解を図れるように努めます。	1 心理的・身体的な状況を、看護師等の病棟関係者、また児童生徒自身に適宜、確認しながら授業を実施しています。児童生徒の実態を的確に把握するのに時間がかかっていることが課題としてあります。 2 担当者間で児童生徒の情報交換を小まめに実施し、実態に応じた支援ができるように努めています。担当者間で支援を検討し、試行錯誤しているものの、支援の難しさを感じることもあるので、より良い支援についての検討を続けます。 3 病院等の関係機関とのメールを使っでの情報交換を試行しています。個人情報の取扱いやメールの活用の仕方についての基準を作る必要があると考えています。

総務部	1 魅力ある教育活動の情報発信に努めます。 2 保護者にとってより有意義になるようにPTA活動を進めます。	1 学校だよりや校内掲示、メール配信システム等を利用して、活動の様子を具体的に発信していきます。 2 保護者のニーズと照らし合わせながら、保護者と教職員で連携し、PTA活動の活性化に努めます。	1 校内掲示や学校だよりでは、児童生徒の生き生きとした様子が伝わるように、写真やレイアウト、コメントなどを工夫しました。後期も各部で様々な行事があるので、その様子が伝わるように取り組んでいきたいと思います。 2 保護者アンケートをもとに研修会の内容を決めました。第1回のPTA研修会では、社会保険労務士の方を講師に招いて、障害年金についての講演を聞きました。今後も保護者とコミュニケーションを取りながら、PTA活動を充実させていきたいと思います。
教務部	オンライン授業の実践を基に、児童生徒の実態に合わせオンラインを適宜使うハイブリッドな授業展開を進めます。	1 オンライン授業の取り組み方の見直しと改善を図ります。 2 対面授業とオンライン授業、それぞれのよさを生かし、児童生徒の実態に合わせた指導を展開します。	1 オンライン授業における課題を集約しました。早期に取り組みそうな課題と長期的な継続課題とを整理し、全職員で共有しました。 2 1で整理した課題や全国におけるハイブリット型オンライン授業の実践事例を参考に、本校において取り組めることの検証や試験的な取組を実施していきます。
自立活動	多角的な視点で児童生徒へのさまざまなアプローチ方法を見つけます。	児童生徒の心身の状態や支援方法を多角的に考えるようにし、よりの確な支援が行えるようにします。児童生徒の強みを生かすことができるような活動内容の工夫を行い、自己理解や自己管理の力がつくように支援を進めていきます。	複数人で児童生徒の実態把握を行い、情報共有をしながら進めることで、目標を明確にして指導・支援を進めることができました。今後は、有効な指導・支援の継続に加え、医療機関や保護者との連携の強化や、児童生徒の適切な評価を行えるよう取り組みます。
生徒指導部	児童生徒が安心・安全に関するさまざまな課題に関心をもち、主体的に安心・安全な生活の実現を目指すことができるような学校づくりに努めます。	1 避難訓練や保護者引き渡し訓練、定期的にシェイクアウト訓練等を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。 2 情報モラル教室や交通安全教室等を通して、児童生徒の危機管理における意識を高めていきます。 3 各部会での児童生徒の情報共有及び部間、関連分掌との連携を図ります。児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。	1 今年度は、2度の避難訓練と引き渡し訓練を実施し、防災に対する意識の向上と非常事態発生時の校内体制の強化を図っています。また、シェイクアウト訓練も複数回実施する計画を立てており、自ら身を守る習慣を身に付けられるよう努めています。 2 昨年度までの小学部に加え、今年度は中・高等部も警察署員を招いて交通安全教室を実施し、児童生徒が交通安全に対する意識を深めることができました。また、夏季休業中には不審者対応訓練(職員研修)を実施し、児童生徒の実態と本校校舎内の環境を踏まえた防犯体制の見直しに取り組みました。 3 各部会で児童生徒の情報交換を行い、「心のアンケート」の結果を踏まえて適切に対応することで、いじめや心の問題の早期発見に努めています。また、他分掌と連携しながら、子どもたちが自身や友達のことを大切に感じることができる学校づくりに取り組んでいます。
保健体育部	教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。	1 児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。 2 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 3 日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。	1 消防士による心肺蘇生法、AEDの扱いの研修をコロナ感染症予防のために「3密」を避けながら対面とリモートで実施しました。演習を伴う研修なのでコロナの感染状況を見ながら、来年度は対面での実施をしたいです。7月からは、熱中症警戒のお知らせを職員室に掲示したことで、各職員の意識が高まり、児童生徒への水分補給、常時換気等、十分な配慮を行うことができました。 ・医療的ケア、食物アレルギーについては、各部会や委員会等で、安全を最優先した取組となるよう検討し、その情報を全校体制で共有しました。 2 コロナ感染症の5類移行に伴い感染症対策の見直しを行いました。手洗いの励行及びマスクの着用の依頼、各教室への消毒液の配付、密にならないような給食時の座席配置、体調不良者が休養できる部屋の確保等、管理職や他の分掌と連携を取りながら対応しました。

進路指導部	生徒の実態と生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	1 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。生徒・保護者のニーズを把握し、必要な情報を的確に提供するとともに進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 2 地域や関係機関との連携を図り、見学、体験、実習等の活動や、多様な進学・就労への個別支援が充実するよう努めます。 3 希望する進路先・居住地関係機関に対して生徒の実態について情報提供することで生徒への理解を深めていただくよう努めます。	1 中学部では、昨年度から大きく変わった受検制度、高等部では進学・就労までの過程を中心とした説明会を生徒、保護者向けに行いました。今後は、進路決定に向け、個別懇談及びカンファレンスの機会を中心に引き続き支援を行っていきます。 2 高校や事業所などの見学等を通して、自己の適性を認識したり、希望する進路先の雰囲気を感じたりする機会を設け、進路への意識を高めることができました。 3 高等部では保護者がスムーズに相談支援と関わられるよう助言するとともに、相談支援機関等との情報共有を行いました。引き続き進路先との情報交換を行い、お互いの理解を深めていきます。
教育支援部	児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実に努めます。各関係機関との情報の共有化、連携の充実に努め、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。	1 職員研修を計画、実施し、児童生徒の適切な支援につながる教職員の資質向上を図るとともに、必要な情報の提供を行います。 2 夏季公開研修として、医療と連携した研修会を企画し、地域の教育関係者に公開します。	1 夏の職員研修では外部講師を依頼し、「スクール・カウンセリングについて」「スクール・ソーシャルワークの実践」等の研修会を実施しました。 2 夏季公開研修では愛知県精神医療センターの医師に協力していただき「精神障害を抱える児童生徒への対応」に関する講演会を開催しました。県内の小・中学校、高等学校の先生方の参加があり、情報交換も行うことができました。
教育情報部	ICT環境を整備し、児童生徒の学ぶ力、教師の指導力を効率よく引き出すための取り組みや、職員が業務を円滑に行うための取り組みを行います。	1 コラボノートなどの教育系クラウドの環境を整え、本校や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への学びの保証ができるようにします。 2 校内ネットワークの整備や運用を行い、職員や児童生徒がより快適に学習に取り組める環境を目指します。 3 他の分掌と連携しながら、新校務支援システムの運用について、環境を整えサポートします。	1 職員からのコラボノートの利用についての相談を受けたり ChatGPT 等についての職員研修を計画実施したりし、児童生徒への学びの保証を図りました。 2 児童生徒や職員がより快適に学習に取り組めるよう校内ネットワークの整備を進めました。 3 他の分掌主任と連携をとり、新校務支援システムの運用について検討しました。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 3 安全・安心な学校づくりができたか 4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 5 センター的機能の充実ができたか 6 仕事の効率化、勤務時間の適正化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか	